

黒髪の美少女、小山内琴葉が現れた。

おじ様こんばんは。
今日もサポして下さるんですか？

もちろん

では毎でお願いします

お金を受け取ると、琴葉はスカートを脱ぎ、
パンツも脱いでしまう。
脱いだパンツは右の手首に巻き付ける。

一連の所作は非常にスムーズだった。
見かけによらず、援交慣れしてるらしい。

そしてそんな琴葉の仕草に、
俺はとても興奮してしまっていた。



あーひゃんっ

はー……
はー……

気がつくとも俺は、
背後から琴葉に抱きついてた。

ちよつと
責めさせて

そう言っつて、首筋を舐める。

ひゃ、
ひゃ、
ひゃーっ

琴葉の身体が、小さく震えた。
少女の首筋は、非常に滑らかだった。

微かな塩味も美味。
首を舐めながら、
俺は右手を乳房に伸ばす。

ふあ、あ……っ
あ、あ、あ……
あ、あ、あ……
お、お、お……
お、お、お……
お、お、お……

責められるのは嫌い？

は……好き

じゃあ……

承

左手で、琴葉の股間に触れる。
無毛のスリットを、手探りでなぞっていく。

あ……あ、あ、あつ！
おじ様……っ
ふあ、ああああ……

琴葉のその部分は、もう湿っていた。

湿地帯を、指で何度も往復する。
ゆっくりとその部分を開いていく。

ちや……
ちや……

じや……
じや……

じや……
じや……

じや……
じや……

カレカレ

果汁の様に、汁が奥から溢れてくる。
俺の指にしみ込んでいく。

や、ぶや……っ
や、や……っ

(すげえ濡れてる……)

溢れてきたぬめりを指に絡めて、俺は琴葉のクリトリスをつまんだ。

や、や、やっ！ ああ、あっ！
ふあ、ふあ、あっ！
あああああ——っ！

首筋の味は、いよいよ濃厚になっていく。少女の身体の震えは、最早痙攣に近かった。援交に慣れたはずの少女が本気で感じている様は、見ていてとても興奮する。

おじ様……っ、
ちよつと、
本当に、だめえ……

イキそうなら
遠慮無くイッていいよ

きゅん♡
きゅん♡

ぞろぞろ

くっ

くっくっ

きゅん♡
きゅん♡
きゅん♡

きゅん♡

きゅん♡

あの、そうじゃなくて……
イクのはもうさつきから、
何度か……ひゃんっ!

その、何度もイッてるから、
もう……あ、あ、あ……っ、
お、おしっこ……出ちやいそいで……

はあ……

……いいよ、
ここトイレだし

いいえ、
そういうわけには……っ

耳を真っ赤にする琴葉。
しかし俺の両手は止まらない。
乳首を弄びながら、
クリトリスも刺激していく。

まあまあ

だめ……本当に出ちやう……っ

おしっこ、もれちゃう……っ、

もう、だめっ、でる、出ちやう

っ、いや、いや、ふやっ!

ああああ……っ

んあッ
ふわああ……

ク……♡

……♡
ぢゅ♡
ゅ♡
♡

—プシヤアアアアアア……っ!

ふあ、あっ!
ああ、ああああああ……っ!

俺が直前までいじめていた部分から、
黄金水が溢れてきた。

まっすぐ、便器の中に向かって伸びていく。

お、上手い上手い

うええ……っ
おじ様あああ……

はあ、

ぷるぷる

ぷるぷる……
ぷるぷる……

んあ

は——…♡♡♡

そう言いながら、
下腹部をマッサージする。

全部出しましょうね

はあ……

やだ、本当に、
全部、出ちゃう……
ふあ、あ、あ……っ
ああ、ああああ……

はあ

はあ

は——♡

はあああ……♡

ふっ……

はあ、はあ、はあ……
ああ、ああ、ああ……

琴葉が呆けた様な表情で、
荒く息を吐いている。
個室には、珈琲を木片で
燻した様な匂いが漂っていた。

ふふふ

あゝあゝ

あゝあゝ

はあ……
ああ……

そう言って、
琴葉の首筋にキスをする。

ぞくぞく

んーッ

琴葉の身体が、また震えた。

あゝあゝ

……はい

全部出た？

良くできました

もう……勝手に人の性癖を、
開拓しないでください

はあ

~~~~~

……気持ち良かったんだ

んんん…

はあ…

で、でも……  
本当に恥ずかしかったですよ。  
これは、追加料金を頂かないと

琴葉が小さく頷く。

んんん…

うっと思うが、  
風俗でも放尿はオプシヨン扱いだ。  
ちよっと調子に乗り過ぎたか。

はあ…はあ…はあ…

んん



はあ...  
はあ...

ん♡

ん♡

ん♡

ん♡

5千円

分かったよ

あら、本気で  
払って下さるんですか？

……冗談なの？

どうしようかしら。  
あ、じゃあ——

琴葉が、悪戯っぽく笑う。

その5千円で、  
今日は中出しOKに  
しちゃおうかな



俺は迷うことなく、  
財布から5千円を取り出した。

ん♡

くすっ♪